

まち塾



輪島市まんなか商店街振興組合／ラトリエ・ドゥ・ノト
《輪島市まんなか商店街振興組合 まち塾共通テーマ：「能登人」》

輪島市まんなか商店街振興組合×能登人

テーマ：高校生と一緒にまちと仕事を考える

食のプロたちが挑む「輪島の賑わいづくり」

.....

1. 「ラトリエ・ドゥ・ノト」について

- 店名 ラトリエ・ドゥ・ノト
restaurant L' Atelier de NOTO
- 法人名 有限会社ボムデーブ
- 創業 2014年9月15日（オープンより1年余り）
- 代表者 池端 準也(いけはた としや)
- 所在地 輪島市河井町4-142
- 営業 ランチタイム、ディナータイム、月曜定休



【特徴】

- 店名はフランス語で「能登のアトリエ」という意味。野菜や魚介類といった豊かな自然の恵みや産物、人の手がつくり出す工芸品など、お客様に「能登の宝物」を最大限に伝えるアトリエをめざしています。
- 代表でオーナーシェフの池端準也氏は30歳代。大阪の「カランドリエ」で6年半修行し、26歳の時に渡仏。ミシュランガイド三ツ星として名高い「ジュエル・ロブション」（パリ）やブルゴーニュ地方でフレンチの真髄を学びました。その後、10数年ぶりにふるさと輪島にUターン。2014年に地元輪島に念願のフランス料理店をオープンさせました。

- 食事はすべて予約制となっており、メニューはランチタイムとディナータイムにそれぞれ3コースのみ。ランチが3,000円以上のため、地域の方が日々気軽に楽しめる価格帯ではないと考えていましたが、1年の中でも外食が多いシーズンを中心に地元輪島のお客が増え、次第に認知度も高まってきました。金沢など石川県内のお客の他、のと里山空港を使い東京から足繁く通うファンの方もいます。
- お店の最大のこだわりは「能登の良質食材」です。休日のたびに能登の生産者を訪問し、美味しく、そして魅力的な食材を探し求めています。そういった地道な活動の中で、「食で能登や輪島を盛り立てていこう」という志をもつ生産者たちと出会い、新しいネットワークを作ってきました。食に関わる仕事をもつ農家、漁師、器作家といった切磋琢磨に刺激し合う仲間と、ふるさと輪島にムーブメントをおこし、首都圏や世界に向けて「能登」を発信していきたいと考えています。
- 「ラトリエ・ドゥ・ノト」はこれまで輪島になかったお店です。能登の食材をふんだんに使った本格フランス料理店であることはもちろんですが、「最高のおもてなし」を目指し、料理人やフロア担当者がプロフェッショナルな知識と技術のもと提供する質の高いサービスが特徴です。これは新しい食のリーダーの誕生と同時に、能登で暮らしていきたいと考える若者たちの仕事づくりに通じていきます。
- 経営課題は人材の確保ですが、これは飲食店だけではなく、様々な業界が抱えている大きな課題です。当店では、輪島の若者たちにやりがいのある仕事を見つけてもらい、ふるさとで働き、長く暮らしてほしいと願っています。輪島の未来を担う人を育てるため、雇用する側とされる側のマッチングや、若者の体験づくりと仕事づくりに積極的に協力していきたいと考えています。

2. まち塾【ラトリエ・ドゥ・ノト】の概要とプログラム

- テーマ 高校生と一緒にまちと仕事を考える
食のプロたちが挑む「輪島の賑わいづくり」
- 塾長 ラトリエ・ドゥ・ノト オーナーシェフ 池端隼也 氏
- 開催日時 2月14日(日) 16:00~18:00
- 会場 ラトリエ・ドゥ・ノト(輪島市河井町4-142)
- 募集対象 高校生(食をテーマにしたまちづくりに興味がある人、地域の食文化に興味がある人、輪島での起業に興味がある人)
- 募集定員 20名
- 参加費 無料

【プログラム詳細】

- 対象者は、輪島の未来を担い、ラトリエ・ドゥ・ノトの将来の顧客となる高校生。ふだんは気付かない自分のまちの仕事や働く人を知り、まだあまり機会がないフランス料理の世界を本格的に体験してもらいます。地域の仕事現場を体験し、地元で働くことの意味やのヒントを得てほしいと考えています。

①まち塾の紹介、塾長・ゲストの紹介

②塾長のおはなし

- 「店名『能登のアトリエ』にこめたふるさとへの思い」
・オープンまでの経緯、地域への思い、探究心、自身の夢など
ラトリエ・ドゥ・ノト オーナーシェフ 池端隼也氏

③塾長×食材生産者等とのトークセッション

- 「世界に向けて輪島を発信しよう！」
農家や漁師の方をゲストに迎え、自分たちの仕事を紹介。世界に発信できる最高のサービスを提供するためにはどのような行動をおこせばいいかを話し合います。その中で参加者(高校生)とのやりとりも行います。また、後継者不足が深刻な課題となっているため、少しでも多くの若者が就業に興味を示してくれることを期待しています。
ゲスト：地元漁師の東野竹夫さん、野菜の生産者、漆芸作家など

④ワークショップ

- 「フレンチの厨房を体験」
参加者にエプロンを付けてもらい、めったに入れないプロの厨房で、野菜切りや魚さばきを体験してもらい、それを素材にシェフが調理します。調理の間はテーブルセッティングを体験します。

⑤お食事タイム 今日だけのスペシャリテ

- 自分たちが下処理をした食材が料理となって提供されます。あまり体験できない本格フレンチを味わいます。

⑥食を彩る うつわ作家のおはなし

- 輪島塗の作家にテーブルに入ってもらい、高校生に仕事内容を紹介します。

主催：輪島市まんなか商店街振興組合
後援：輪島市
協力：石川県商店街振興組合連合会
石川県中小企業団体中央会

3. 輪島市まんなか商店街振興組合が実施する

「まち塾」の特徴と共通テーマ

【特徴】

- 輪島の地域資源「能登人」を前面に出します。協力店の店主や関係者の方に、「輪島の地域資源は何か？」と尋ねたところ、瞬時に「輪島の地域資源は人である」との答えをいただきました。今回のまち塾では、輪島の今と未来を築いていく上で最も大切な地域資源「能登人」と、ネットワークから生まれる新たな動きをプログラムに反映していきます。
- 幅広い世代が積極的に交流できる場をつくります
塾長は、地域を盛り上げてきたベテランから、新しい感覚で経営に取り組む若手の店主たち。参加対象者は、将来の顧客となる高校生から高齢者。多世代の価値観や考え方が共有でき、世代を超えた交流ができる場になります。
- 座学とワークショップの組み合わせで効果を高めます
当日は、店主のおはなしや連携する方々との対談といった座学の他、参加者のみなさんといっしょに専門知識を楽しく学ぶワークショップを開催します。

【共通テーマ】

- 全体に流れるテーマは「能登人」
「能登人」こそ、地域が誇る大切な財産です。輪島市まんなか商店街振興組合のまち塾では、若手店主からベテラン店主まで、地域で活躍するキーパーソンが登場。地域住民のみなさんとさらに深くつながり合うことで、地域と商店街の未来を描き、ともに活性化していくことを目的としています。

4. 今後まち塾に取り組む商店の紹介

【店舗名】 福田建具店（建具製造・小売業）

【テーマ】 特別公開・まちのお宝見学ツアー 日本家屋を彩る「伝統建具の世界」

【塾長】 福田建具店 代表 福田 和稔 氏

【内容】 ①元・塗師屋の住宅兼ギャラリーにて福田建具店の建具技術の見学
②塾長による建具の仕事と魅力についての講演

【開催日時】 平成28年2月20日（土）午後1時～午後3時

【会場】 福田建具店（輪島市河井町3-84）

【見学先】 輪島市内にある元・塗師屋の住宅兼ギャラリー

【店舗名】 セブンアイルズ（飲食店）

【テーマ】 起業の楽しさを新築カフェで考える

「カウンターの内側」に立って見えること

【塾長】 セブンアイルズ・アグラディート代表 田辺 和久 氏

【内容】 ①新しい仕事づくりと店舗拡大の夢について

②新築カフェ「アグラディート」での仕事体験

③参加者とのトークセッション

テーマ：「あなたの大事なものはなんですか？」

【開催日時】 平成28年2月28日（日）午後3時～午後5時

【会場】 カフェバル アグラディート（輪島市マリンタウン4-9）

※カフェバル「アグラディート」は本年2月9日にオープンした、スペイン料理をベースにしたお店です。

5. 輪島市まんなか商店街振興組合について

●多彩な分野の店舗が並ぶ輪島の中心街

「まんなか」という名称の通り、輪島市の中心部である河井町中央通り沿いに位置する商店街です。約400メートル続く大通りを中心に、輪島塗を一堂に集めた輪島漆器会館から、輪島塗や土産物を扱う専門店、地元食材を生かした飲食店、暮らしや住まい、ファッションに関わる専門店、福祉・健康などに関わる店舗が軒を連ねています。道の駅・輪島から徒歩10分、輪島朝市通りから徒歩3分という交通アクセスは、地域住民だけではなく、観光客にとっても好立地といえます。



●くつろぎの拠点づくり

近年は、少子高齢化や後継者不足などの社会問題を抱えながら、商店街の新たな役割を追求した取り組みがなされています。その一つが「うるし・いやし・おもてなし」という商店街のスローガンを掲げ、子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄り、くつろいでもらえる商店街づくりです。年1回の「まんなかフェスタ」の開催や、高齢者宅への配食サービス、地域住民が集う憩いの場「まんなかふれあいサロン」の運営など、組合メンバーが知恵を出し合い、手づくりの事業やイベントを実施しています。

●地域と商業活性化に向けた動き

現在、当商店街に面した道路の拡幅工事が進んでいます。これまでより約1メートル拡張されるため、今後は新しい空間づくり、魅力ある環境づくりが大きな課題となってきます。今回の「まち塾」も、地域と商業活性化の一策として実施。若手からベテランまでの店主がネットワークを組み、商店街の魅力を明確に打ち出しながら、商店街活動の持続と活性化をめざしています。



6. まち塾（まちなか商店学習塾）とは

～地域資源×商店×地域住民で、賑わい創出とまち・ひとの活性化へ～

●まち塾のスタイル

まち塾は商店主が塾長を務め、地域にお住まいの皆様に受講者になっていただきます。塾長が専門店ならではの貴重な情報や地域への思いを語り、また、受講者の皆様の声に耳を傾けます。個性的で経験豊かな商店主の人柄に触れることができるでしょう。

●まち塾の目的

まち塾は、商店街のお客様だけではなく、地域にお住まいの皆様と商店や商店街との関係を深めるために開講するものです。まち塾をきっかけに新しい商店街活動が自主的に始まることを目的にしています。

●地域資源を活用するまち塾

まち塾は、地域資源を商店街活動に活用することを考えます。地域資源は特産品や文化財だけにとどまらず、まちの景色や風習であったり、魅力的な商店主や住民であったりして、想像力を膨らませれば無限に湧いてきます。

●今年のまち塾

まち塾は平成26年から始めました。昨年度のまち塾で「発掘」した地域資源には地域の病院、古い町家と町家の連なる街並み、ご近所にある保育園や幼稚園などがあります。それらを活用する試みとして「糖尿病予防の健康料理教室」「町家を活かした店づくりとモノづくり」「絵本の読み聞かせ」などのまち塾を開講しました。